



第 61 号

発行 長野県教育委員会  
編集 同 和 教 育 課  
発行人 大 井 方 夫  
印刷 富 士 印 刷

# 開かれた学校・地域社会を目指して



長野県教育委員会教育長 齊藤 金 司

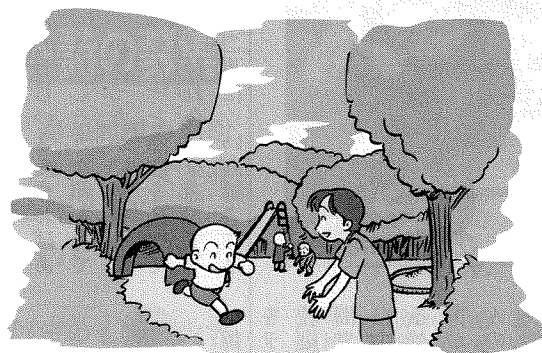
同和教育の推進につきましては、日頃から多大なご尽力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、二十一世紀は、「人権の世紀」といわれており、人と人とお互いの人権を尊重し合い差別のない明るい社会を目指して、共に生きる真の共生社会づくりを進めていくことが「層求められています」。

「人権教育のための国連10年長野県行動計画」の、さらなる実践を通し、「共に生きる心の「層の充実」を図り、「いつでも、誰でも、どこでも」人権が尊重される、明るい長野県づくりに向け、みんなで力を合わせていきましょう。そして、地域ぐるみの同和教育を推進することによって、人権感覚豊かな子どもたちや、安心して自己を語りあえる学校や地域が育つことを心から願うものです。

最後になりますが、本年度『共育クローバープラン』を提案いたしました。

「本を読む・汗を流す・あいさつ、声かけをする・スイッチを切る」という四つの活動を通して、教育を巡る多くの課題にこえられるような人間としての確かな力を培いたい、との思いからです。このプランは同和教育が機能する開かれた学校・地域社会を目指す取り組みにも重なるものであります。趣旨をご理解いただき、「学習参加」を合い言葉に各学校や地域での取り組みをよろしくお願い申し上げます。



## も く じ

- 学校・地域・家庭あげての同和教育……………2
- 人とのつながりを広げ、深められる体験活動を大事にした取り組み……………4
- 本年度の同和教育の重点 地域ぐるみの同和教育の推進……………6
- やまびこ「子どもたちの心を聴く」……………7
- 年間行事計画……………8

## さがしもの

地上に産まれて 五分あまり死んだ私  
その後よみがえった私

この五分の為 右半身に障害が…

普通学校ではみんなの言葉・態度で  
何度も「死」を考えた

でも よみがえってきたからには  
私にしかできないことがあるはず  
— と思いとどまり今まで…

「私にしかできないことさがし」を  
始めようかな？

(花田養護学校高等部 1さん)



教育に取り組んでいます。各月間とも、生徒会主催で全校同和教育集会在催されました。前期はワークショップ活動「トロボス」と「ノアの方舟」を行いました。

「今日の集会は、他の学年の人達と協力したりしました。新聞紙の上に乗った時、すごく難しかったです。でもすごく楽しかったです。こういうゲームをこれからもやっていけば、先輩とも同じクラスの人も仲良くなっていけると思っています」(1年女子) 「ジャンケンであいこを出す時、相手が何をか考えながら出した。とがいろいろなことにつな

ると思いました」(3年男子) などの感想が寄せられました。具体的に体を動かして活動することで、生徒は、いじめや差別をなくすためのスキルをつかんでいるようです。

後期には各クラスから、期間中に学んできたことが発表された後、解放子ども会の活動が発表されました。アメリカ黒人市民権獲得運動の指導者キング牧師が命をかけて闘ってきたことについて、劇を交えての発表でした。お互いが偏見や差別解消にむけての取り組みを知り合う、有意義な会になりました。

族みんなが「ひとつ腹を割って話をしましょう。人と人とのかわりあいのあり方について話をしましょう。そこで話し合われたことをお互いに出し合い、広報を通じて各家庭の『ひとつばなし』の様子を知る機会にしていこう」との趣旨で毎年行われているのです。この話し合いの中で、「他人の気持ちを思いやれる人はたくさんいると思います。でも、立場、考えがちがえば、よかれと思ってしたことでも迷惑だったりして、『ひとつのいたみは私のいたみ』というのとはとても難しいと思います。『私が気にならないことでもあなたは気にすることが

ある。少なくとも自分がされて嫌なことはいらない』というのが基本だと思いました」 「結婚差別について授業を参観して、結婚するにあたって、又は結婚後も部落問題が重くのしかかっていることに心が痛みます。三年生に娘がいますが、この子が将来結婚する時には、昔の因習は『まぢがっている』ということをお互い強めてきているので、その場になっても反対する人を説得できるだろうと思うし、親自身もそうならなければいけないと感じています」などの感想が寄せられました。

このように、講演を聞いたり授業を参観したりすることを通して、親自身が自分自身のあり方を振り返っていくところが、いつかは子ども達のところにも響いていくことになると思います。



**PTA「ひとつばなし週間」**

人権問題の解決に向けて取り組んでおられるKさんから「人のいたみを自分のいたみに」と題して全校生徒、保護者、教職員を対象に同和教育部の講演会がPTA同和教育部の主催で開催されました。同和問題と共に戦争中の朝鮮人への差別事象もからめての、説得力のあるお話でした。この講演会後、恒例の「ひとつばなし週間」を行いました。これは、講演会、授業参観、身近な差別などを題材に、家

**差別の解消を目指す  
ポスター、作文・詩の募集**

人権意識の高揚と、同和問題の早期解決を図るため、ポスター、作文・詩を募集します。応募部門は、ポスターの部、作文・詩の二部門です。(小・中・高校別)です。

ポスターは明るい展望のもてる内容とし、大きさはB3判(36.4センチ×51.5センチ)。作文・詩は、自分の体験や実践に基づいて述べたものとし、作文は400字詰め原稿用紙6枚以内、詩は同4枚以内です。

★募集期間(詳細は後日配布の要綱で)  
ポスター 10月～11月  
作文・詩 11月～12月

**部落差別をなくす啓発強調月間  
7月1日(日)～7月31日(火)**

12月1日(土)～12月10日(月)は  
『部落差別をなくす県民運動強調旬間』

このように、講演を聞いたり授業を参観したりすることを通して、親自身が自分自身のあり方を振り返っていくところが、いつかは子ども達のところにも響いていくことになると思います。

最後にありますが、N村では毎年一回、「幼・小・中、高、行政職員同和教育連絡研修会」が持たれ、各学校や行政での取り組みが紹介され、お互いの実践から学びながら同和教育を推進しています。指定の二年目を迎えた今、目の前の生徒達を見つめつつ、一層の努力を積み重ねていきたいと取り組んでいます。

# 人とのつながりを広げ、深められる 体験活動を大事にした取り組み

総合的な学習の時間における同和（人権）教育

平成十二年十月二十六日、

A小学校三年二組の教室から子どもたちの歓声が響いていました。この日は、待ちに待った「福祉ひろばの高齢者とのカルタ大会」です。二十九名の学級を三つの班に分けて、その中に福祉ひろばのお年寄りが入りました。

班ごと約束が確認された後、札を読む人を決め、カルタ大会が始まりました。

「あつた」「取れた。取れた」

「ぼく、お手つきしちゃった。ごめんね」「○○さんすごいな」「○○君もたくさん取れたね」カルタを取れた喜びの声や、また、自分の失敗を素直に認める姿、お互いが取る速さに感心する場面も見られ、自分たちもお年寄りの方も共に楽しもうという姿がうかがえました。

カルタ大会が終わって、活動の見返しが行われました。

「お年寄りの方が速くて、びっくりしました」

「とっても楽しかったし、うれしかったです」

「○○さんはいっぱい取れたからすごいです」

「○○さんに、取るのが速いんだね、と言われてうれしかったです」

「とても楽しかった。時間が短かった」と、楽しかったことうれしかったこと、感想等が出されました。さらに、Sさんは、「今度のカルタ作りも綴り方の時間を懐かしく思いながら作りました」Nさんは「子どもとともに笑い、語りあい、意見を述べあい、大いなる活動、活力を与えてくれました」と共に活動したすばらしさを語ってくれました

A小学校は、平成十一年、十二年と文部省の人権教育研究指定校を受け、この日、その成果を公開しました。先生方は次の四点を共通理解し、研究を進められました。

- 1 児童の実態を知る  
全校児童実態調査を五月と九月に行い、結果を分析して児童の育ちと課題を洗い出しました。調査項目の中には、差別した体験やされた体験を問う設問の他に、「あなたは自分のことが好きですか」「あなたは友達の良いところを見つげようとしていますか」という設問があり、自分自身を問い返す項目もありました。
- 2 児童の実態から同和教育でつきたい力（同和教育的視点）を決め出す  
全校研究会で、本校のめざす児童像（かしこい子どもやさしい子ども たくましい子ども）から見た児童の育ちと課題を各学級担任が発表し

1 児童の実態を知る  
全校児童実態調査を五月と九月に行い、結果を分析して児童の育ちと課題を洗い出しました。調査項目の中には、差別した体験やされた体験を問う設問の他に、「あなたは自分のことが好きですか」「あなたは友達の良いところを見つげようとしていますか」という設問があり、自分自身を問い返す項目もありました。

3 総合的な学習の時間と同和（人権）教育  
総合的な学習の時間のねらいを、「横断的・総合的な課題や児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題を重視し、体験活動を学習の基盤におきながら自己の生き方を考える学習である」と位置づけています。さらに、「他者の立場や考えを思いやったり、理解したり」「友達と協調する」活動は、児童の人権感覚を養っていく上で大事な学習の場と考えています。

合い、同和教育的視点として生命尊重・自尊感情・思いやりの三つを決め出しました。そして、この三つの視点から日常の同和教育を進め、指導の見返しをしてきました。

尊感情、生命の尊重、思いやりの三つの心を育成するには「一人一人のよさや違いに気づき、共に認め合い、学びあいのできる」体験活動を大事にすることが必要であり、そのために次の四つの手だてを立てて研究を進めてきました。

- ① 人とのつながりを広げ、深めることが期待できる体験活動を位置づける。
- ② 体験活動の中核にすえた授業展開を工夫する。
- ③ 体験活動の継続、積み重ね、繰り返しによって、友達の気づかなかったことに気づき、見えなかったことが見えてくる。
- ④ 自分や友達の努力や成長

## お年寄りの方と一緒に作った福祉広場カルタ（一部を紹介）

- いつまでも ながいきしてね お年より
- うれしいな 交流会に 来てくれて
- けいけんが いっぱいあるよ お年より
- 先生や 生との顔も ゆめに出る
- 外に出て 元気な 子ども えがおと 会える 交流会
- ねんねんと こもり歌 お年よりに ならつたよ
- はつきりと 意見を 言うよ お年より
- みんなのね ぬくもりのこる 福祉ひろば
- めだかの学校 今も昔も 水の中



を見返し語り合うための場面作り・時間の確保・学習形態を工夫する。

この手だてのほかに、同和教育の日常化を大事に考え工夫して実践しています。

1 自分の育ちを振り返るためのカード

これは、日々の授業用（図1）と二週間を振り返って（図2）の二通りがあります。

活用は各学級に任ざれており、ファイルにして自分の変容を知るきっかけにしたり、

帰りの会で友だちの見返しを聴いたりする学級が多かった

2 ようです。  
 2 人権にかかわる標語作り  
 (図3)  
 月の目標からテーマを教師が提示し、児童が考えた作品を校内壁新聞で掲示したり、学校便りで家庭に配布したりしました。

これらの活動の結果、次第に、あいさつが明るくできるようになり、友達や教師の話を熱心に聴くことができるようになりました。

一人一人の児童が自分に自信を持ち、友達や先生とのかかわり方を自問する中で、三つの心が育ってきたからであり、児童



図1 (3年2組のカード)

**福祉ひろばの方とのカルタ会  
ふりかえりカード**

名前 \_\_\_\_\_

自分のめあて \_\_\_\_\_

- 1 このめあてができましたか。
- 2 自分の考えを持ってましたか。
- 3 話している人に顔を向けて聞きましたか。
- 4 考えながら、聞きましたか。
- 5 みんなと協力できましたか。

この人権感覚が高まってきたことと、この現われであると考えます。

図2 (1週間をふり返って) ふりかえりカード

年 組 名 まえ \_\_\_\_\_

月 日 ~ 月 日 (1週間をまとめて)

◎よくできた ○できた △できなかった

1	友だちにあいさつをした
2	いつも名ふだをつけていた
3	自分の考えや思っていることをはっきり言えた
4	友だちをよびすてにできなかった
5	友だちのよいところを見つけて、話した
6	友だちのよろこぶことをした
7	友だちのいやがることをしなかった
8	あぶないことをしなかった
9	とうばん・かかりのしごとをきちんとした

☆ 1~9までのぜんぶに、しるしをつけます  
 ☆ 土曜日(金曜日)に、しるしをつけます。

**図3 人権にかかわる標語(二部紹介)**

一年生…おばあちゃん いつもおしいつけもの ありがとう  
 二年生…おじいちゃん たけのこほりて おいしいな  
 三年生…ふくしひろば いっぱい交流 につこりと  
 四年生…おじいちゃんおばあちゃん いつも仕事してる すこいね  
 五年生…おばあちゃん 今いてくれて ありがとう  
 六年生…おばあちゃん お手玉じょうず 器用だよ

三年二組の交流会の深まり  
 高齢者との交流の始まりは、平成十二年四月に、学校の空き教室に開設された「福祉ひろば」でした。ここに來られる地域のお年寄りとの交流会を三年生が中心となって総合的な学習の時間の活動として取り組んできました。

三年二組では、二期に五回の交流会を行い、高齢者との人間関係を深めました。

カルタ大会までの経過は、次の通りです。

①九月六日今後の活動についての話し合いがされ、十三の遊びを「手作りカルタ」「双六」折紙の「めんことあやとり」の四つに絞りました。ここでは、少数の意見が大事にされ、複数の意見が取り入れられた遊びに決定されていきました。

九月下旬、どんなカルタをどのように作るか話し合われました。「学校の明るさを伝えたい」「これからも長生きしてほしい」「また、今度も一緒に遊ぼうよ」「ありがとう」という個々の子どもの思いを出し合いながら、高齢者の方に喜んでもらいたい・自分の気持ちが伝わるようなカルタにしたい。三月で福祉ひろばがなくなってしまうから、高齢者にプレゼントしたい紙に「めんことあやとり」の四つに絞りました。ここでは、少数の意見が大事にされ、複数の意見が取り入れられた遊びに決定されていきました。

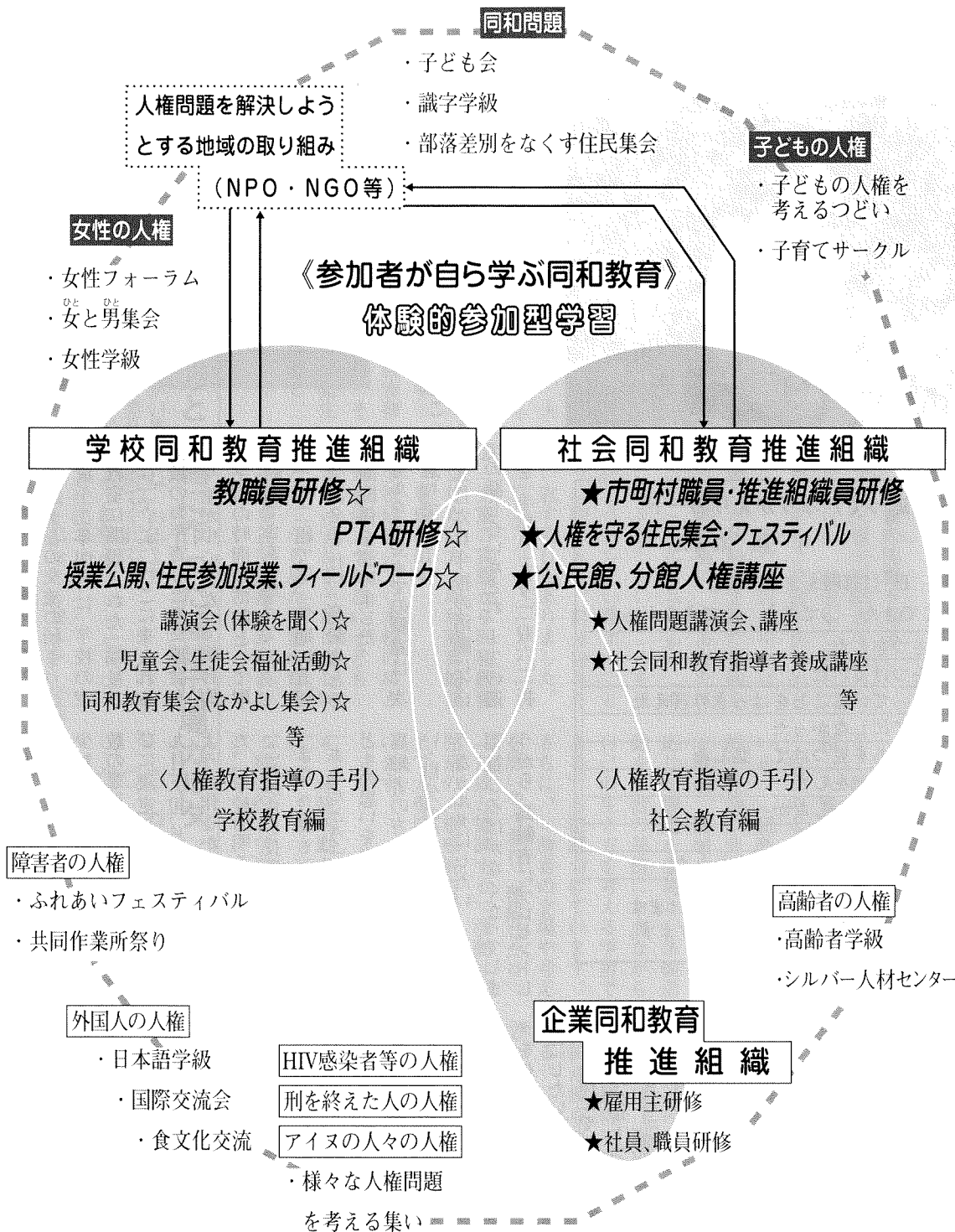
九月下旬、どんなカルタをどのように作るか話し合われました。「学校の明るさを伝えたい」「これからも長生きしてほしい」「また、今度も一緒に遊ぼうよ」「ありがとう」という個々の子どもの思いを出し合いながら、高齢者の方に喜んでもらいたい・自分の気持ちが伝わるようなカルタにしたい。三月で福祉ひろばがなくなってしまうから、高齢者にプレゼントしたい紙に「めんことあやとり」の四つに絞りました。ここでは、少数の意見が大事にされ、複数の意見が取り入れられた遊びに決定されていきました。

④十月十九日の朝、A君の「ぼく、二十九日に転校することになりました。B「明日までにカルタを作って、A君のいるカルタ会にしたい」C「できるならA君と一緒にやりたい。私はA君と一緒のグループじゃないけど、今までA君が頑張ってきたから、D「A君もできるようにぼくたちが、がんばって作りたい」

このA君の転校にかかわっての話し合いの場面では、二人一人の子が大切にされている学級の姿を見ることができました。子どもたちが安心して自分の考えを言い合える雰囲気になっているとともに、児童が自分以外の友だちのことを考えられるようになっていました。育つことが感じられます。毎時間、毎週使っている振り返りカードの効力も感じられます。このような温かい学級という土壌があつて、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決へ向けての真剣な話し合いがなされるのだなと思えました。



# 地域ぐるみの同和教育の推進



〔本年度の同和教育の重点〕  
**【地域ぐるみの同和教育の推進】**  
 学校や社会(市町村)、また企業等には同和教育の推進組織があります。これからは、各推進組織が、NPO等地域の様々な人権問題に取り組む人たちのネットワークでつながるなど、地域ぐるみの学習がより一層求められます。

《 誰もが安心感・自己充実感を持って生きられる学校・地域 》



### 母と娘

スキー場で二人姉妹と母親の三人の親子に出会った。外は寒いが、レストランの中なので暖かだった。姉は、5歳ぐらい、妹は、2歳ぐらいの姉妹で、私のちょうど向かい合いに座り休んでいるところだった。

しばらく、なにやら話をしていたが、急に、姉が入口の方へ走って行った。その姿を見た母親は、「行っちゃだめ、知らないからね!」と大声で姉を止めた。姉は、それでも入口へ走っていく。彼女は、少し席から離れ、今まで以上の大声で、「知らないからね!」と姉を呼び止めた。

その声で、姉も止まり、母親のもとへ帰ってきた。帰ってきた姉に、「言うことを聞かない子は、いらぬ」と一言言うと、妹の方を向き、姉を無視し始めた。姉は母親の肩に手をやり、「お母さん、お母さん」と気を引こうとした。しかし、母親は、姉の方

を全然向こうとしない。それどころか妹の方を向き続け、

### 子どもの人権

「お姉ちゃんなんか知らないよね」と話しかけていた。ついに姉は、泣き始めた。母親の肩や裾に手をやり自分に注目してくれるようにと努力するが、全然顔を向けてくれない。姉は、今まで以上に大きな声で泣き続けた。

その時、窓越しに男性が顔を出した。どうも、父親らしい。母親は、「お姉ちゃん外に出ていい」と父親に言った。父親は、うんとうなずいた。彼女は、今までのことがうそ

この母親と娘を見ていて考えさせられたことが二つある。姉が一人で外へ行くことは危

ないから、止めようとするのでは当然である。しかし、そのやり方として、「無視するような態度で接したり」「知らないよ」と話す言葉が子どもに与える影響は大きいと思

う。このようにして育てられた子どもは、友だちにも同じように接するのではないかと思われる。そして、もっと気になるこ

## 子どもの心を聴く

のように、姉の身支度を整えてやった。外に出た姉は、父親に手伝ってもらうのでなく、一人でスキーをはき、父親の所へ滑って行った。

それからしばらくして、彼と姉は、レストランの中に入ってきた。今度は、にこにこしながら、母親の所に寄って行き、母親と楽しそうに話していた。

この様子を見ていた私は、何度も、母親に話しかけようかと思っていたが、結局、話をせずに終わってしまった。

とは、父親の行動である。きっと、彼は、親子三人が休んでいる間、一人で滑ってもよいと思行動したに違いない。

しかし、現実には、姉は、外に出たくて、一人で行動した彼がもし姉と一緒に行動していたら、母親と娘のトラブルがなかったと思う。

では、学校ではどうだろうか。この母親のように接してはいないだろうか。子どもがこうしたい、ああしたいということを本当に理解しているだろうか。どうして、そうし

たいか、子どもの立場に立って考えているだろうか。先生自身が、子どもを無視するよ

うなことをしてはいないだろうか。同和教育の最も大事な、人を人として尊重する精神を是非ともあたりまえのこととして考えられる大人であってほしい。

### 少年・少女の声

ここに二冊の本がある。「うれしかった母の一言」を中心として、父、先生への言が掲載されている。子どもたちが、どんな言葉に勇気づけられているかが分かる。(一部掲載)

#### 「うれしかった言葉」

母 初めて働いたお金でプレゼントしたら、「お前の汗なんだね。かわかないように大切にしろよ」と言った。母 「頑張りな。頑張りな。無理しないで頑張りな」

母 「寒いから入んな」家出をしていて、父が恐くて帰るに帰れなかった時の母の一言。ほっとした。父 「お前は俺の子だ。大切なむすこだ」幼い頃、ふろの中でおやじの背中を流している時に聞いた一言。

父 「お前がぐれたのは、わしの責任だ。裁判官、息子は悪くないのです。」

父 母からこっそり聞いたあの言葉。「あいつはよく働くな」とてもうれしかった。先生 「よく来たな。明日も来いよ。先生待ってるからな。しっかりやれよ。うん、よかった。よかった」

先生 「おつ頑張るとるな」何気ない言葉だけど、僕はすごくうれしかった。先生 「バカヤロウ、なぜ、オレがオマエに一生懸命で、オマエはちがうんだ」

### 大人が変われば子どもも変わる

ちよつとした言葉で喜んだり、悲しんだりする子どもたちが子どもである。そんな子どもたちに、大人は、どれほどの勇気をあたえることができるだろうか。反対に、どれほどの落胆をあたえることができるだろうか。それは、大人次第である。大人が、子どもの心を聴くことこそ、子どもの人権を尊重する第一歩である。そのためには、大人自身が、もっともつと自身自身を磨き、自分自身を変えな

ければ、子どもは、変わるわけがない。私自身がいちばん変わらなければと思う日々である。(佐久教育事務所)

### 「共育」

#### クローバープラン

取り組み内容例

・「本を読む」

子どもと一緒に読書、子どもにも読ませたい本の推薦、図書館利用の拡大、児童の誕生日に本のプレゼント

・「汗を流す」

公園等の清掃・美化活動、学校林・地域林の整備、休耕田の活用、子どもと一緒に遊ぶ宿泊体験

・「あいさつ・声かけをする」

学校で、街で、家庭で、大人は子どもに、子どもは大人や子ども同士でも、自然に「おはよう」「こんにちは」のあいさつや「大丈夫」「いいねえ」などの声かけ「スイッチを切る」

テレビ、ゲーム機、携帯電話等のスイッチを切って家族や仲間と会話、冷暖房機のスイッチを切って自然を体感



# 年間行事計画

## 【学校同和教育】

○学校同和教育担当者会議  
対象 同和教育担当者

同和教育推進教員

- 五月 十日(木) 伊那
- 五月 十一日(金) 松本
- 五月 十八日(金) 飯田
- 五月 二十一日(月) 上田
- 五月 二十九日(火) 佐久
- 五月 二十九日(火) 長野

○学校管理職同和教育研修会

対象 小、中、高、盲、ろう、養護学校の教頭

- 五月三十一日(木) 東・北信  
(県庁講堂)
- 六月 五日(火) 中・南信  
(総合教育センター)

○新任同和教育推進教員研修会

- ①四月 九日(月)
- ②六月 八日(金)

○地区別同和教育推進・指導教員会議

- ①六月 十一日(月) 中・南信
- 六月 十五日(金) 北信
- 六月 十八日(月) 佐久
- ②十月 九日(火) 佐久

○総合教育センター同和教育講座

- 十月 十二日(金) 中・南信
- 十月 二十六日(金) 上小
- 十月 二十九日(月) 北信
- ③一月 二十五日(金) 上田
- 二月 五日(火) 中・南信
- 二月 八日(金) 佐久
- 二月 八日(金) 上小

○学校同和教育研究協議会

対象 幼・保、小、中、高、盲、ろう、養護学校の教員

【東信】

- 佐久 十一月 十九日(月) 佐久合庁
- 上田 十一月 二十八日(水) 南小学校

【北信】

- 十一月 八日(木) 埴生中学校

【中信】

- 十一月 十三日(火) 明科中学校

【南信】

- 伊那 十一月 九日(金) 天使幼稚園
- 飯田 十月 三十一日(水) 富草小学校

【総合教育センター同和教育講座】

○初任者研修

対象 小、中、高、盲、ろう、養護学校初任者

- 五月 十日(木)

対象 高等学校初任者

- 八月 二十三日(木)

○中堅教員研修Ⅰ

- ①五月 十六日(水) 十七日(木)
- ②八月 九日(木) 十日(金)

○中堅教員研修Ⅱ

- ①五月 二十九日(火) 三十日(水)
- ②六月 十八日(月) 十九日(火)
- ③八月 七日(火) 八日(水)

○管理職研修

- 九月 十一日(火)

【社会同和教育】

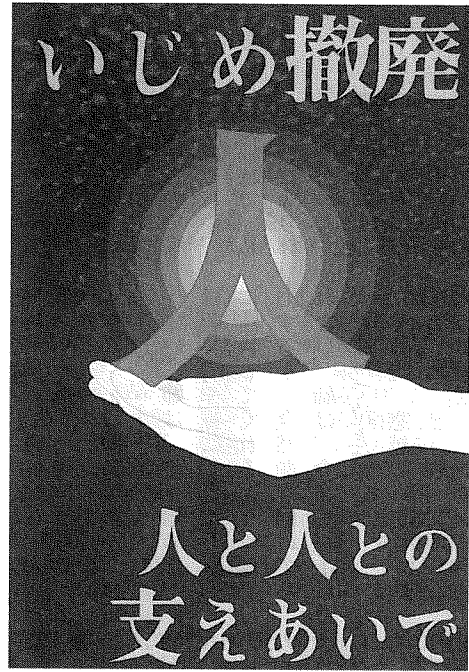
○社会同和(人権)教育研究協議会  
対象 市町村企業内・PTA同和教育担当者等

- 六月 四日(月) 上田市
- 六月 四日(月) 松本市
- 六月 十二日(火) 長野市1
- 六月 十三日(水) 飯田市
- 六月 十九日(火) 長野市2
- 六月 二十日(水) 伊那市
- 六月 二十六日(火) 佐久市

○社会同和(人権)教育リーダー研修会  
十月 十九日(金) 中・南信  
十月 三十日(火) 東北信

### 平成13年度 同和教育中高連絡協議会事務局校・幹事校一覧

通学	事務局校	幹事校
1	飯山南高等学校	飯山市立第三中学校
2	中野西高等学校	中野市立中野平中学校
3	長野東高等学校	小川村立小川中学校
4	更級農業高等学校	長野市立更北中学校
5	上田染谷丘高等学校	上田市立第三中学校
6	望月高等学校	望月町立望月中学校
7	富士見高等学校	富士見町立南中学校
8	箕輪工業高等学校	駒ヶ根市立東中学校
9	阿智高等学校	阿智村立阿智中学校
10	木曾山林高等学校	栖川村立栖川中学校
11	梓川高等学校	波田町立波田中学校
12	大町高等学校	大町市立第一中学校



平成12年度・差別の解消を目指すポスター入選作品  
立科中学校3年 石井 結